



## 統計数理研究所に滞在して見てわかったこと

2013年11月22日

中村多美子

科学者論

ツイート 2

B! 0

おすすめ 0

WEBRONZAで原稿を書かせていただくようになって、もう3年近くになる。このご縁のお陰で、今年、思いもよらず日本数学会の[Journalist in Residence in Mathematics](#) (JIR, ジャーナリスト・イン・レジデンス) という企画に参加することになった。これは、数学という学問の営みを、専門家でない人々に伝えるというアウトリーチ活動の一つである。アウトリーチ活動として特徴的なのは、(1) 滞在型である、ということと、(2) 数学の研究者自らがアウトリーチを行うのではなく専門外の人にやってもらう、という点である。

JIRでは、滞在する側がどの研究機関に行くか希望を出すことができる。私が真っ先に希望したのは、[統計数理研究所](#)だった。

統計と聞くと法律家は、ディズレーリが言ったとされる言葉を思うかべるかもしれない。「嘘には3つの嘘がある。嘘、ひどい嘘、そして統計だ。(There are three kinds of lies; lies, damned lies, and Statistics.)」

三百代言とか詭弁家とか揶揄されることの多い弁護士としても、そんなふうにいわれる統計に親近感を持つ部分もあるのだが、まじめな話、私が応用数学である統計学に長く関心を持ってきたのは、法実務で「統計」がちらちら顔を出しているように思われることと、そのことに多くの法律家が自覚的でないように思えたからである。

法と統計に関する個別の話題はさておき、私の統計学へのある種の親近感が、あながちの外れでもないと思ったのは、所内の月例懇談会に出席させていただき、同研究所の樋口知之所長に統計家のプロフェッションについてうかがった時だった。

樋口氏は、「統計学とは『大人の科学』である」という。実は、法学も「大人の学問」だと言うことがある。なぜ、大人なのかということについては諸説あろうが、両者に共通して言えるのは、「現実の社会で役に立ってナンボ」というあたりではないだろうか。

社会に存在する出来事(統計学では「データ」という形をとる)は、さまざまだ。実際に発生してしまった事件の真相を、法律家が完全に知ることはまずない(よくある法廷ミステリーのように真相が明らかになることなどは現実にはほとんどない)。それこそ墓場まで持って行かれて永久にわからないことなどいくらだってある。知りえた事実も理想的に客観的というわけにはいかない。通常、紛争当事者の語る情報には、立場によってかなりのバイアスがかかっている。証拠がいくぶん欠落した状態で、あいまいで不完全な情報を手がかりに、法的判断を求められるのが法の実務だ。何もかもが解明され尽くすまで、全てを突き詰めていくことはできないのである。

[KARAの解散騒動と最新K Press\)](#)
[秘密保護法案は憲法改悪』\(BloggersToday\)](#)
[自分が「発達障害」だなんてど『ニトロちゃん』作者・沖田\(シノドスジャーナル\)](#)
[「芸能兵士」の相次ぐ不祥事兵制度\(Global Press\)](#)
[特定秘密保護法について\(E](#)
[サッカー欧州遠征～最大の\(WEBRONZA+ 社会・メディ](#)
[秘密保護法案、マスメディア「空気」とどう向き合うか\(WEBRONZA+ 国際\)](#)
[国内で最初の「準暴力団」素事件判決」の行方\(WEBRONZA+\)](#)
[サッカー日本代表、停滞感\(WEBRONZA+ 社会・メディ](#)
[町田樹の挑戦\(上\)——「ブこだわり\(スペシャル\(社会・](#)


政治・国際

[秘密保護法案、マス組織の「空気」とどう向き平茂紀](#)
[憲法を議論する前に、玉音放て考える \(11/19\) 鈴木崇弘](#)
[「国安委」は中国版NSCか?](#)


経済・雇用

[社会主義でもないの!上げ」の茶番 \(11/22\)](#)
[今もくすぶり続ける欧州経済英資](#)
[CSRの観点から見た、阪急隊教訓\(下\)——不祥事の防止はるしかない \(11/21\) 森撰](#)

社会・メディア

おそらく、統計学にも似たようなところがある。法とは異なり、数学を言語として用いながらも、事象の不確実性、あいまいさを取り扱おうとするのが統計学だ。もちろん、法といってもいろいろあるように、統計学にもいろいろあるが、統計学の目的の一つに、推論をするということがある。時間や予算といった実務の制約や倫理的な制約などから、データの採取の方法にあいまいさや不完全さはつきまとう。時には欠落した情報を、数学の言語で推論しながら、目標とする結論にたどりつこうとする営みは、なんとも法の実務に似ている。

樋口氏はいう。

「とことんつきつめようとするれば、おそらくきりが無い。しかし、統計学では、何を知りたいかということが重要だ。私はよく『寸止め』と表現するが、知りたいことがぎりぎりわかるところまで統計的手法を駆使して突きつめる。それ以上の追求は、趣味の世界で、得られたデータはただのホワイトノイズ(雑音)だ。この『寸止め』の加減の巧拙で、統計のプロフェッションは決まるのだ」

それぞれの営みの中で、なぜその事実(データ)を得ようとするのか、という目的から目をそらしては結論にはたどりつけない。むやみやたらに調べればよいとは限らないからだ。無数に存在する事象の中から、分野の目的に応じて事象を切り取る手腕こそが、およそあらゆる専門家に求められる。

しかし、法と統計が目指しているのは、不合理で不条理な社会における一定の「解決」だ。無邪気に真相を追いかけるだけではなく、一定の結論を出し、社会の中で具体的で妥当な「解決」を図るという視線のもとで、何かを割り切らざるをえないという部分が、ともに「大人」と表現される理由ではなからうか。

高度に抽象的な数学を駆使して研究・利用される統計学。しかし、その営みは、法の世界にも似て、なんとも生々しく、人間くさい側面があるようだ。

日本数学会JIRでは、他分野の専門家が、職場を一定期間離れる滞在型アウトリーチが成功するか懸念も持っているようである。しかし、実際に体験した者としてメリットは大きかったと感じる。まず、その組織で過ごしてみないとわからない雰囲気を知ることができた。電話がひっきりなしに鳴り、来訪者が絶えず、法廷と事務所を走り回っている弁護士からすると、静謐(せいひつ)このうえない雰囲気の部屋で、静かな語り口の研究者と接する日々は、まるで裁判官室にいるようだ。

また、滞在することで、思いもよらない研究者との出会いが広がる。加えて、滞在ができることで、一晩寝せて話の続きができる。これは1回限りのアウトリーチではできないことだ。

ちなみに、統数研は東京地家裁立川支部の隣の建物に入っている。統数研で出会ったほぼ全ての研究者が、そのまま隣の裁判所にいても違和感のないドレスコードで、しかもかなり時間に正確であるということも、滞在しなくては分からないことだった。また、同じ建物にある国立極地研究所は折しも国際会議の真っ最中で、極地研関係者らの体育会系ノリと、統数研のメンバーは何とも対極的だった。

## プロフィール

### 中村多美子(なかむら・たみこ)

弁護士(大分県弁護士会)。1989年京都大学農学部入学、翌年法学部に転入学。95年司法試験合格。京都大学博士(法学)。関心領域は、家族法や子どもの権利、そして「科学と法」。09年度から始まった科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センターの「不確実な科学的状況での法的意思決定」プロジェクト代表。日弁連家事法制委員会事務局次長。

### 中村多美子の新着記事

8月6日に科学者に考えてほしいこと(2013/08/02)

憲法改正論議にみるコミュニケーションギャップ(2013/05/08)



サッカー欧州遠征〜流か(11/22) 潮智史



福島県の県民健康管理調査結果が出た飯館村村民を対象に流か(11/20) 大久保真紀  
政府は水俣病の救済制度の流か(11/19) 大久保真紀



科学・環境  
統計数理研究所に滞在したこと(11/22) 中村多美子



なぜオーロラ観光客はオーロラ(11/21) 山内正敏  
「三国志」の生物学 ~曹操の話(下)~(11/20) 武村政春



文化・エンタメ  
「ジョンはいいけど、オント?」(11/16) 近藤麻



1930~50年代の東宝映画:でニュープリント上映!(下)-島太郎の後裔』をめぐって(11/20) 島太郎の後裔  
食材偽装問題、虚栄心に支那は足元すくわれておくほうがしえか



スペシャル  
【昭和エロに見る現在】(7) (11/22) 香川フクシヨ



特定秘密保護法案の廃案を(11/20) 特定秘密保護法案(ジャーナリスト、メディア関係者) Yahoo!トピックスはネットのか?——連続討議「ソーシャ、ける情報流通と制度設計」か報ネットワーク法学会

## 編集部から

WEBRONZA+政治・国際シさん(11/20)

WEBRONZA+経済・雇用シさん(10/30)

WEBRONZA+経済・雇用シさん(10/24)

WEBRONZA+科学・環境シさん(9/5)

WEBRONZA+文化・エンタシさん(9/1)

**「決める」ための科学コミュニケーションを～「ミドルメディア」という試み** (2013/02/08)

**弁護士が見たiPS研究(その2)「倫理」の問題を真正面から議論すべきだ** (2012/11/03)

**弁護士が見たiPS研究(その1) 科学技術の世界戦略に法律家をもっと関与すべし** (2012/11/02)

[中村多美子の記事一覧へ](#)

---

[サイトポリシー](#) | [リンク](#) | [個人情報](#) | [著作権](#) | [利用規約](#) | [特定商取引](#) | [会社案内](#) | [広告掲載](#) |  
[サイトマップ](#) | [お問い合わせ](#)

「WEBRONZA」は朝日新聞社の登録商標です。

WEBRONZAに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright ©2013 The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.